

## 海外研修旅行（イタリア）の報告（第2報）

大塚三雄・鈴木敦巳・林 文明  
中川 実・松本美紀

### 1. はじめに

本学では、人材育成のため毎年夏休み期間中に希望者を募り海外研修旅行を実施している。研修旅行先は、2000年より本学の提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校が所在するイタリアとして行われており、今回で3回目である。

本稿では、2002年に行われたイタリア研修旅行について報告する。

### 2. 研修旅程

イタリア研修旅行は、提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修及びフェラーリ工場の見学を中心とした自動車に関わる研修と、異国文化に関わる研修をおりまぜながら旅程を検討し立案した。研修旅行の日程は2002年8月30日（金）～9月6日（金）の6泊8日に決定し前年度の反省から全体の旅程を2月から調整し、更に研修の中心となる日程を4月から調整してきたので、途中大幅な変更もなく実施できた。その研修内容は、表1に示すように、イタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修をはじめとしてフェラーリ工場及びランボルギーニ工場の見学、更にフェラーリ博物館及びランボルギーニ博物館の見学、前年度、研修内容に入れることができなかったフェラーリ専門のカロッツェリ

表1 イタリア研修旅行実施旅程

| 日時           | 移動及び宿泊            | 食事     | 旅程内容  |
|--------------|-------------------|--------|---|
| 8月30日<br>(金) | 名古屋～<br>ミラノ       |        | 名古屋空港集合(8:00)<br>名古屋空港よりルフトハンザ航空にて出発(10:25)～フランクフルト着(15:00)、フランクフルト発(17:25)～ミラノ空港着(18:40)、夕食(20:20～21:20)、ホテル着(21:30)   |
| 8月31日<br>(土) | ミラノ泊              | 朝<br>昼 | 朝食(6:30～)、集合(8:45)、ホテル出発(9:00)<br>ミラノ市内観光(最後の晩餐、ドゥオーモ、スカラ座、スフォルツェスコ城)(9:00～12:00)<br>昼食(12:30～14:30)<br>自由行動(14:30～21:30)、21:30点呼   |
| 9月1日<br>(日)  | ミラノ～<br>フィレンツェ    | 朝<br>昼 | 朝食(6:30～)、集合(8:15)、ホテル出発(8:30)～(12:30)<br>着後、昼食(12:30～14:15)<br>フィレンツェ市内観光(ウフィツィ美術館、ドゥオーモ)(14:30～16:40)<br>自由行動(16:45～17:15)<br>ミケランジェロ広場より展望(17:45～18:00)  |
|              | ボローニャ<br>ボローニャ泊   | 夕      | ボローニャへ移動(18:00～19:30)、夕食(20:00～21:20)<br>ホテルへ移動(21:25～21:40)  |
| 2日(月)        | ボローニャ～<br>ヴェネツィア  | 朝<br>昼 | 朝食(6:30～)、集合(8:15)、ホテル出発(8:30)～(10:30)<br>着後、昼食(12:15～14:00)<br>市内観光(ドゥッケーレ宮殿、サンマルコ寺院、リアル橋、叹息の橋、サンマルコ広場)(14:15～16:00)<br>ゴンドラ遊覧(16:15～17:00)<br>自由行動(17:00～21:00)、21:15点呼<br>ホテルへ移動(21:20～22:10)  |
| 3日(火)        | ヴェネツィア<br>～マラネロ   | 朝<br>昼 | 朝食(6:30～)、集合(9:45)、ホテル出発(10:00)～(12:45)<br>着後、昼食(13:00～14:30)<br>TONI SILVANO&C(整備工場)の見学(14:35～14:50)<br>フェラーリ工場見学(15:00～16:00)<br>フェラーリ博物館見学及び工場・学校周辺の散策(16:15～18:30)  |
|              | ～モデナ<br>モデナ泊      | 夕      | モデナへ移動(18:40～19:15)、ホテルで夕食(20:00～22:20)   |
| 4日(水)        | モデナ<br>～マラネロ      | 朝      | 朝食(7:30～)、集合(8:15)、ホテル出発(8:30)<br>ZAMASI(整備工場)の見学(9:15～9:35)<br>テストコースの見学(9:35～9:45)<br>フェラーリ工業専門学校研修(10:00～11:10)<br>フェラーリ工場付近散策(11:15～12:10)<br>フェラーリ工場食堂にて昼食(12:30～13:45)<br>昼食後、ボローニャへ移動(14:00～14:55)、<br>ランボルギーニ博物館及び工場の見学(15:00～16:30)<br>ボローニャへ移動(16:30～17:30) |
|              | ～ボローネーゼ<br>～ボローニャ | 夕      | ボローニャへ移動(18:00～19:25)、夕食(19:30～21:00)<br>ホテルへ移動(21:10～21:25)  |
| 5日(木)        | ボローニャ～<br>名古屋     | 朝      | 朝食(6:30～)、集合(7:45)、ホテル出発(8:00)<br>ボローニャ空港よりルフトハンザ航空にて出発(10:50)～フランクフルト着(12:25)、フランクフルト発(13:55)  |
| 6日(金)        | 名古屋着              |        | 名古屋空港着(8:15)、着後解散   |

ア及びフェラーリ社のテストコースの見学、異国文化に関わる研修では、ミラノ、フィレンツェ、ヴェネツィアの三都市を周り、ミラノで最後の晚餐を鑑賞、フィレンツェでウフィツィ美術館の見学、ヴェネツィアにおいては、水の都を満喫できるゴンドラにての遊覧を含めたものであった。

### 3. 参加募集

研修旅行の参加者募集は、研修旅行に対する保護者の理解を早めに得るため、3月下旬に新1年生及び新2年生の保護者に案内を出した。更に、入学式に新入生及びその保護者に案内をした。また、全学生を対象に海外研修旅行に関わる意識調査アンケートを4月上旬のクラス別ガイダンスの時間に実施し、興味を示す学生の把握を行った。学内では、各教室及び主要建物、受付窓口、相談窓口にはポスターを貼り、研修旅行のアピールをしながら4月中旬より研修旅行の説明会を10回行い、説明会参加者数が54名に達した。申し込み者数も定員35名に対して5月下旬には、ほぼ定員に近い人数となった。これは、前年度の反省より募集活動を早くから行えたからだと考えられる。よって、今後も本年度のように、早くから募集活動ができるよう調整していく必要があると考える。研修旅行最終参加者は、募集定員の35名であった。

### 4. 研修旅行風景

研修旅行1日目は、午前8時に名古屋空港に集合し結団式を行った後、名古屋空港からフランクフルトへ向けて午前10時25分に飛び立ち12時間の長いフライトを体験し、更にフランクフルトを經由してミラノ・マルペンサ空港に着いたのは、現地時間の午後6時40分（日本との時差は7時間）であった。それから、バスでミラノ市内に1時間かけて移動しイタリアでの初の夕食を味わった。

2日目は、ミラノの市内観光でドゥオーモ（教会）、スカラ座、ヴィットリオ・エマヌエレ2世ギャラリー、スフォルツェスコ城の見学及び最後の晚餐を鑑賞した。スカラ座前での集合写真を写真1に示す。昼食後、自由研修となったが、去年はあまり取るができなかった時間を半日とることができ、学生は思い思いの場所を自由に散策することで異国文化をかなり肌で感じ取っ



写真1



写真2

ていたようであった。

3日目は、ミラノからフィレンツェへバスで4時間かけて移動し、昼食後、フィレンツェの市内観光でウフィツィ美術館、ベッキオ橋、シニョリーア広場、ドゥオーモなどを見学しました。見学後、短い時間ではあったが、自由研修の時間も取れジェラートを賞味しながら異国を満喫している学生もいた。その様子を写真2に示す。その後、絶景である高台のミケランジェロ広場よりフィレンツェ市街を展望し、今日の宿泊場所であるポローニャに向けて2時間半のバスの移動となった。

4日目は、今年初めて研修場所を選んだヴェネツィアに向けてポローニャよりバスで2時間の移動となった。ヴェネツィア本島には車では入ることはできず、すべて水上バス（船）での移動となり、ヴェネツィア本島内も一台の車もバイクも自転車も走っていないという、他では絶対に味わえないような雰囲気を肌で感じる事ができた。昼食後の市内観光では、ドゥカーレ宮殿やサンマルコ寺院をはじめとして、サンマルコ広場、溜息の橋、ガラス細工工房などを見学し、更に水の都ヴェネツィアを遊覧するゴンドラ（船）に乗船した。その様子を写真3に示す。その後、自由研修に入り夜までたっぷり異国文化を味わった。また、参加者の心がけが良かったのか、朝から快晴という天候にも恵まれて学生諸君も最高の顔をしていた。



写真3

5日目は、自動車に関する研修の場所であるマラネロまでバスで2時間半の移動をし、昼食後、昨年は見学できなかったトニーオート（整備工場）の見学及び稼動しているフェラーリ工場の見学をはじめとして、フェラーリ博物館の見学、その周辺の散策とかなり充実しているようであった。フェラーリ社ロビーでの集合写真を写真4に、フェラーリ博物館内での様子を写真5に示す。



写真4

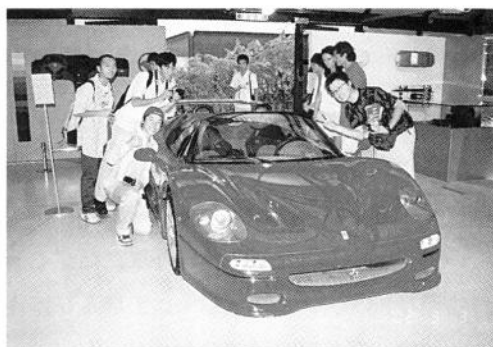


写真5

6日目は、朝から昨年見学できなかったザナシー（フェラーリ専門の整備工場）及びフェラーリ社のテストコースを見学した。テストコースでの様子を写真6に示す。見学後、フェラーリ工業専門学校での研修が行われた。研修修了証書授与の様子を写真7に示す。研修終了後、フェラーリ本社食堂での昼食体験をして、ランボルギーニ社が位置するボロネーゼまでバスで1時間の移動となった。ランボルギーニ社では、新型車が出たばかりなので、当初は工場見学の許可が下りなかったが、研修旅行中に再度ランボルギーニ社にお願いしたところ、運良く許可が下りた為、見学できることとなった。更に昨年9月8日にオープンしたばかりの博物館の見学もでき、学生諸君も満足しているようであった。博物館内での様子を写真8に示す。

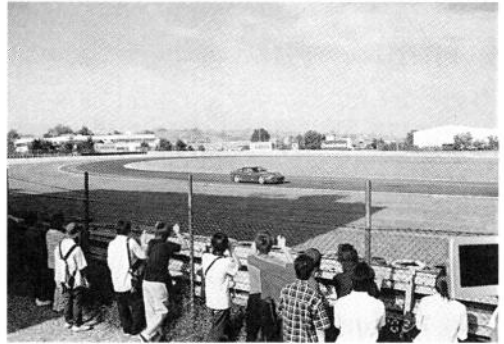


写真6

7日目は、帰路に着くためポローニャのホテルを午前8時に出発し、ポローニャ空港よりフランクフルト経由で名古屋に向かい、8日目の朝、全員無事に名古屋空港に到着し解団式を行った。



写真7



写真8

## 5. アンケート結果と考察

アンケートは、研修旅行参加者を対象として、旅程最終日に研修旅行全般、宿泊ホテル、各研修先等についての感想を5段階評価(5. とても良かった, 4. 良かった, 3. 普通, 2. やや不満, 1. 不満)してもらったものである。その結果を表2に示す。

このアンケート結果から、自動車に関する研修の中でフェラーリ工場の見学は97%、フェラーリ博物館は86%、ランボルギーニ工場及び博物館の見学は77%の学生が満足していることがわかる。これは、前年度の研修旅行で見学日に休日で稼動していなかったフェラーリ工場が本年度は稼動しているところが見学できたことと、普段見ることができない車を数多く見ることができた

表2 アンケート結果

5とても良かった 4良かった 3普通 2やや不満 1不満

| 質問項目             | 5  | 率   | 4  | 率   | 5.4率 | 3  | 率   | 2 | 率  | 1 | 率  | 合計 |
|------------------|----|-----|----|-----|------|----|-----|---|----|---|----|----|
| 1 イタリア研修旅行全般     | 27 | 77% | 7  | 20% | 97%  | 0  | 0%  | 0 | 0% | 0 | 0% | 35 |
| 2 利用ホテル          |    |     |    |     |      |    |     |   |    |   |    |    |
| ミラノ(ディカバリエリ)     | 5  | 14% | 19 | 54% | 69%  | 10 | 29% | 1 | 3% | 0 | 0% | 35 |
| ボローニャ(ホリデーイン)    | 4  | 11% | 13 | 37% | 49%  | 15 | 43% | 2 | 6% | 1 | 3% | 35 |
| ヴェネツィア(ラグナパレス)   | 25 | 71% | 10 | 29% | 100% | 0  | 0%  | 0 | 0% | 0 | 0% | 35 |
| モデナ(カナルグランド)     | 6  | 17% | 15 | 43% | 60%  | 11 | 31% | 2 | 6% | 1 | 3% | 35 |
| 3 フェラーリ工場見学      | 31 | 89% | 3  | 9%  | 97%  | 1  | 3%  | 0 | 0% | 0 | 0% | 35 |
| 4 フェラーリ博物館見学     | 17 | 49% | 13 | 37% | 86%  | 4  | 11% | 1 | 3% | 0 | 0% | 35 |
| 5 フェラーリ校の研修      | 9  | 26% | 13 | 37% | 63%  | 9  | 26% | 3 | 9% | 1 | 3% | 35 |
| 6 工場付近の散策(整備工場等) | 16 | 46% | 8  | 23% | 69%  | 9  | 26% | 2 | 6% | 0 | 0% | 35 |
| 7 フェラーリ工場食堂での食事  | 10 | 29% | 9  | 26% | 54%  | 12 | 34% | 3 | 9% | 1 | 3% | 35 |
| 8 ランボルギーニ博物館見学   | 16 | 46% | 11 | 31% | 77%  | 7  | 20% | 1 | 3% | 0 | 0% | 35 |
| 9 ランボルギーニ工場見学    | 19 | 54% | 8  | 23% | 77%  | 7  | 20% | 1 | 3% | 0 | 0% | 35 |
| 10 移動に利用したバス     | 11 | 31% | 13 | 37% | 69%  | 9  | 26% | 1 | 3% | 1 | 3% | 35 |
| 11 ミラノ市内観光       | 19 | 54% | 11 | 31% | 86%  | 5  | 14% | 0 | 0% | 0 | 0% | 35 |
| 12 フィレンツェ市内観光    | 15 | 43% | 13 | 37% | 80%  | 4  | 11% | 2 | 6% | 1 | 3% | 35 |
| 13 ヴェネツィア市内観光    | 27 | 77% | 7  | 20% | 97%  | 0  | 0%  | 1 | 3% | 0 | 0% | 35 |

ことによりかなり高い数値を示したと考える。また、異文化に関する研修先も、ミラノが86%、フィレンツェが80%、今回はじめて旅程に入れたヴェネツィアについては97%と、どの場所も前年より多くの学生が満足している。研修旅行全般においても、前年は94%だったが、今回は97%と学生の満足度が上昇している。これは、前年のアンケート結果を基に研修旅程を新たに付加価値のある研修先を見出し、日本では見聞し難いことを数多く体験できたことと、自由研修時間を多くとることにより、異文化を肌で感じ取れる時間が増えたからだと考える。今後も、研修旅行に参加した学生が更なる魅力を感じられるようにするために、研修旅程を立案する段階で、過去のアンケート結果や報告書を有効に活用し検討することが重要になると考える。

## 6. ま と め

この研修旅行は、前年のアンケート結果及び報告書を吟味しながら旅程を検討し立案できたことにより、殆どの学生が異国での貴重な体験を満足してくれる結果となった。これは、今後、彼らの大きな糧になると思う。なにより、研修旅行の行程が、何事も無く順調に実施でき全員が無事に帰国できたことが、一番の成果である。

最後に、この研修旅行を実施するにあたり多大な協力を頂いた本学の先生方、研修先の調整をして頂いた学園本部の蜂須賀先生には、ここに深く感謝の意を表します。